

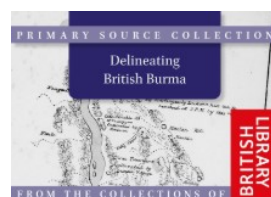
■ 英国によるビルマ支配の全過程を記録した、他に類を見ない文書アーカイブ

英領ビルマの境界画定 1826～1949 年頃

Delineating British Burma, c. 1826–1949

英領ビルマの境界線が描く東南アジアの政治地図
今日の国境問題の起源に迫る

本コレクションは、英国によるビルマ併合の3段階に伴い、またその後に続く情報収集、体系化、普及、という長い過程を反映した公式・機密の印刷物を集めたものです。本コレクションには、英領インドの周辺諸国について常時作成されていた情報部（Intelligence Branch）の調査資料と、英領ビルマの各地区・州およびその境界に関する独自の完全な地誌・地形誌や報告書が含まれています。



三度の戦争

本コレクションは、1824～1826年、1852～1854年、1885～1886年の三次にわたる戦争の同時代の記録や公式な歴史書から始まります。最初の戦争が1826年に終結した際、アッサム、アラカン、テナセリムが東インド会社の領土に編入されました。アッサムは英領ビルマには編入されず、アラカンはベンガル政府の管轄下に移され、テナセリムはカルカッタの総督の直接管理下に置かれました。第二次戦争の後、東インド会社はペグーとマルタバンを併合し、ビルマ下部全域を支配下に置きました。そして1862年、テナセリム、ペグー、マルタバンが統合され、新たに英領インドの一州「英領ビルマ」ととなりました。

この州はそれぞれの地区を統括するコミッショナーがおり、彼らはラングーンの実務コミッショナーに報告し、その実務コミッショナーはカルカッタの総督に直接従う形となっていました。この時点で、独立国であったビルマは内陸に閉じ込められ、特に南側の英国の圧力にさらされることとなりました。とりわけ、中国への新たな交易ルートを求める商業的利益が、この圧力の要因となっていました。



大学・学術機関向け

買い切り (Outright Purchase) ・同時アクセス無制限

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの年間管理費 (Annual Hosting Fee) は不要です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社まで別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 極東書店

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

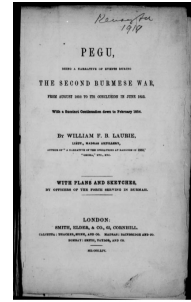
〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

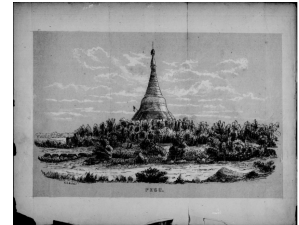
URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp

新たな領土の併合

1886年1月1日、ビルマ王国の最終的な併合により、英領ビルマの面積は倍以上に拡大しました。しかし、一部の地域では1889年まで散発的な戦闘が続きました。新たに併合された地域は4つの管区（コミッショナー管轄区）に分割され、ペグー（バゴー）もその間に2つに分けられたため、イギリス領ビルマは合計8つの管区で構成されるようになりました。これらの管区は、ラングーンに本部を置く主席コミッショナーの下に置かれ、行政機構も拡大していきま



1897年、主席コミッショナーに代わって副総督（Lieutenant-Governor）が任命され、立法評議会（Legislative Council）の支援を受けるようになりました。これにより、ビルマ独自の法律が英国統治下で初めて制定されることが可能になりました。1923年1月2日には、防衛や外交といった分野を除く幅広い行政権限がビルマ政府に委譲されました。



インドからの分離と独立へ

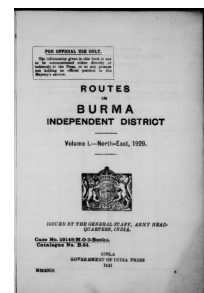
1937年4月1日、新たな憲法の施行により、ビルマは英領インドから正式に分離されました。この憲法のもとで、上院（Senate）が設置され、その半数は総督（Governor）が指名することになっていました。また、下院（House of Representatives）は選挙によって選出される仕組みとなりました。総督はもはやインド総督の指揮下ではなく、ロンドンのビルマ担当大臣（Secretary of State for Burma）に直接報告する立場となりました。ただし、この職はインド担当大臣が兼任していました。

第二次世界大戦と独立

日本軍の侵攻が始まると、英国とインドの行政当局はインドへ撤退し、シムラ（Simla）で亡命ビルマ政府を樹立しました。しかし、1945年10月に英国当局がビルマに戻ったときには、すでに権力はビルマ民族主義者の手に移っていました。そして、1948年1月4日、英国の統治は正式に終了し、ビルマは独立共和国となりました。

領土の確定

最初の地誌は1879年に編纂されましたが、これはビルマ下部のみを対象としていました。1883年に発行された2冊目の地誌は、ビルマ下部と独立ビルマを対象とし、さらに1900～1901年には約3,000ページに及ぶ大規模な地誌が編纂され、シャム州（シャム諸州）も含まれました。また、シムラの亡命政府によって戦時用の手引書や地誌も発行されています。



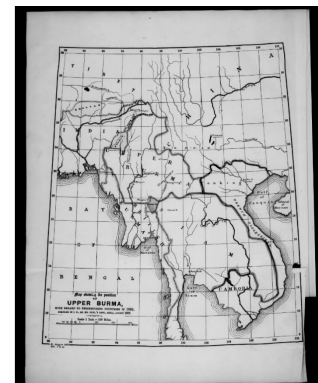
軍事報告書やルートブック（道路・経路の記録）は、インドの軍事本部にあった情報部（Intelligence Branch）、後には東南アジア司令部（South-East Asia Command）によって作成されました。1903年に初版が発行されたルートブックは、北部、北東部、西部、南部およびシャム諸州の4つの地域に分けられていました。戦時中の版では、「C」「D」「G」「H」「L」「M」といった経路が記録されています。

英領ビルマの国境確定は、1826年の最初の領土併合後に始まりましたが、正式な国際協定の形をとるのは1890年代になってからでした。本コレクションには、以下の秘密／機密報告書が含まれています。

- Anglo-Siamese Commission (1892～1893年)
- Amherst-Siam Commission (1894～1896年)
- Burma-China Commission (1894～1899年)
- Sino-British Commission (1935～1936年)

■文書のタイプ別に、全5セクションに整理されたアーカイブ

1. The British Conquest, 1827-1905
2. Gazetteers and Handbooks, 1879-1944
3. Military Reports and Route Books, 1903-1945
4. Boundaries, Reports and Examinations, 1892-1936
5. Reports on Districts and States, 1868-1936



ビルマ地誌(Burma Gazetteer)

『ビルマ地誌』は、20 世紀初頭のイギリス領ビルマに関する詳細な多巻本で、各地区の行政官によって編纂されました。この地誌は A 部 と B 部 に分かれています。

A 部：各地区の歴史・地理・行政・経済生活などの詳細な記録をまとめたモノグラフ

B 部：統計表を収録

A 部は、1910～1935 年にかけて 26 地区分が作成されました。B 部（統計）は、以下の 3 つの版があります。

1906-1907 年版：36 巻（中国の丘陵地帯およびシャン州とカレンニ州は未収録）

1912-1913 年版：42 巻（1～42 の番号付き）

1924-1925 年版：42 巻（1～43 の番号付き。1912 年版の第 5 巻「ラングーン」が欠）

本コレクションには、この『ビルマ地誌』シリーズに含まれない、特定の地区や州に関する他の資料も多数収録しています。

